

100周年記念招待論文特集の発行にあたって



100周年記念招待論文特集編集委員会

委員長 山崎 憲一

本会は2017年5月をもって創立100周年を迎えた。また、和文論文誌が会誌から独立したA, B, Cの形で発行されたのは1968年1月からであり、およそ50年が経過したことになる。この間、ご投稿頂いた著者の方々、査読をご担当頂いた査読委員の方々、編集を支えて頂いた編集委員の方々ならびに事務局に感謝申し上げます。

当編集委員会は、100周年を記念した特集を出版することを目的として設置された。特集の内容についていくつかの案が議論されたが、論文誌であることを鑑み、これまでの優れた研究業績について招待論文の形で改めて振り返って頂くのがふさわしいのではないかと考えた。また併せて、そのような優れた研究業績をお待ちの方が、当該分野の将来の方向性についてお考えになっていることにも触れて頂くのが、100周年を記念した論文として価値があるのではないかと考えた。

長い歴史の中で優れた業績はもちろん沢山あるわけであるが、当委員会では本会の業績賞を受賞したことを一つの基準とした。おおむね平成元年以降の業績賞を対象として、記念論文にふさわしいかという観点から編集委員による投票を行い、これを一次審査とした。次に一次審査結果の上位の業績について、技術分野の重複や、現時点において改めて論文として取り上

げることの価値等を吟味し、議論の末12編の業績に絞った。

これらの業績の受賞者の方々に招待論文の執筆を依頼した。業績賞の内容に近年の進展を加えたり、将来の方向性についてもお考え頂いたりする必要があることから、執筆期間や修正期間は通常よりも長く確保し、丁寧な執筆を心がけて頂いた。12編の論文は、いずれも読みごたえのあるものであり、当該分野の研究者だけでなく、初学者にも有用な内容である。執筆頂いた著者の方々に深く感謝申し上げます。

最後に、招待論文の校閲は編集委員が直接担当するルールであるが、このように多くの招待論文を一度に校閲したことは近年では例がなく、編集委員の方々には通常編集業務でお忙しい中、大変ご負担をおかけした。感謝申し上げます。本特集が電子情報通信分野の次の100年に向けた研究開発の礎となれば幸いである。

やまざき けんいち
山崎 憲一 (正員：シニア会員) 昭59東北大・工卒。昭61同大大学院修士課程了。同年日本電信電話入社。平12よりNTTドコモ。平22より現職。プログラミング言語、OS、記号処理計算機、形態素解析、ユビキタスコンピューティングの研究に従事。現在、芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科教授。博士(工学)。平27本会通信ソサイエティ活動功労賞受賞。平27より本会通信ソサイエティ和文論文誌編集委員長。ACM、IEEE、情報処理学会、人工知能学会各会員。

